

『マス・コミュニケーション研究』投稿規程

1. 投稿資格

- (1) 日本マス・コミュニケーション学会会員であること。
- (2) 投稿時点で、投稿年度までの学会費を完納していること。

※共著の場合は、すべての著者が投稿資格を満たしていること。

2. 投稿原稿

- (1) テーマ 本学会の趣旨に添うもの。

[参考] マス・コミュニケーション学会規約第3条

本学会は新聞・放送・映画・雑誌等ジャーナリズムおよびマス・コミュニケーションに関する研究，調査ならびにその研究者相互の協力を促進し併せて外国の学会との連絡を図り，以て我が国文化の向上に貢献することを目的とする。

- (2) 内容 未公刊の論文

「論文」とは、独創性・新奇性のある研究成果を論理的・実証的に展開した内容のもの。

- (3) 形式

- ① 原稿を記述するための言語は、日本語とする。
- ② 原則として、Word あるいはテキスト形式で作成した原稿に限る。
- ③ 原稿は、1 頁あたり 40 字×35 行で作成する。
- ④ 図表等は、本文中に、内容が判別できる大きさと挿入する。なお、本文中に電子データで図表等を挿入することができない場合は、図表等が挿入されるべきスペースを空白にし、郵送するハードコピーの該当箇所に貼り込む。
- ⑤ 別途掲載の「執筆要領」に記された点に注意して記述する。

- (4) 分量

上記(3)の形式で作成した原稿 15 枚以内(タイトル・本文・注・参考文献・図表等を含む。氏名、所属等は記載しないこと)。ただし、全体で、スペース分を含め、21,000 字を越えてはならない。

※下線部は、『マス・コミュニケーション研究』第 88 号より適用

3. 投稿原稿の受付

- (1) 投稿予定者は、学会会報及び学会 HP に掲載された「募集のお知らせ」に記載された申込要領にしたがって、申込締め切りまでに投稿申込を行う。
- (2) 投稿原稿は、学会会報及び学会 HP に掲載された「募集のお知らせ」に記載された投稿要領にしたがって、投稿締め切りまでに投稿する。

4. 投稿原稿の掲載

- (1) 投稿原稿は、編集委員会委員および編集委員会から委嘱された査読者による査読を受ける。
- (2) 投稿原稿の掲載の可否・順番などについては、編集委員会が決定する。掲載が決まった論文が多数の場合、一部の論文の掲載を次号へ送ることもある。

以上

『マス・コミュニケーション研究』執筆要領

1. 原稿の形式と分量

(1)形式

- ① 原稿を記述するための言語は、日本語とする。
- ② 原則として、Word あるいはテキスト形式で作成した原稿に限る。
- ③ 原稿は、1 頁あたり 40 字×35 行で作成する。
- ④ 図表等は、本文中に、内容が判別できる大きさと挿入する。なお、本文中に電子データで図表等を挿入することができない場合は、図表等が挿入されるべきスペースを空白にし、郵送するハードコピーの該当箇所に貼り込む。
- ⑤ 和文は全角文字を、数字・英文などは半角文字を基本とする。『マス・コミュニケーション研究』は横書きで印刷されるので、年月日などは算用数字で記述する。

(2)分量

上記 (1) の形式で作成した原稿 15 枚以内（タイトル・本文・注・参考文献・図表等を含む。氏名、所属等は記載しないこと）。ただし、全体で、スペース分を含め、21,000 字を越えてはならない。

※下線部は、『マス・コミュニケーション研究』第 88 号より適用

(3)注意事項

執筆の際には、投稿者の氏名、所属などが査読者に判別されないよう記述に注意する。氏名、所属などの記載が必要な場合には、掲載が決まって、初校を校正する際に加筆する。

[氏名、所属などが判別されやすい記述の例]

「拙著『（文献名）』で論じたように」「本論文は科研費（研究代表者名）による共同研究の一部である。」「本調査は著者が所属する（大学名）の学生を対象にした。」

2. 句読点

本文の句点は全角「。」を，読点は全角「，」を用いる。

3. 本文の見出し

本文に章・節の番号を付け，その後に章・節のタイトルを付ける。章・節を番号のみで分けるのは不可とする。

[見出しの例]

1. 幼児期のテレビ視聴

1-1. 調査の概要

4. 注

補注を必要とする場合は，(1)，(2)，…の記号で本文該当箇所右肩に示し，巻末の引用・参考文献の前に〈注〉と明記のうえ一括して記載する。

5. 引用・参考文献，本文および注での引用

(1) 引用・参考文献等の記述

引用・参考文献は以下の例に準じて記述する。

- ① 本文中の引用文献・参考文献を著者名のアルファベット順に一括して並べ，論文の末尾に記載する。
- ② 同一の著者の場合は，発行年の古いものから順に並べる。論文名は「」を書名には『』を付す。
- ③ 文献の著者はファミリーネーム，ファーストネームの順で示す。
- ④ 欧文の書名，雑誌名はイタリック体（斜体）で表記する。
- ⑤ 外国文献の記載は，それぞれの言語の標準的な標記形式に準ずるものとする。

[引用・参考文献の形式]

単行本（単著）：著者名（公刊西暦年）『書名』発行所

単行本（共著の一部）：著者名（公刊西暦年）「論文名」編著者名『書名』発行所

雑誌 引用論文著者名（公刊西暦年）「表題」『掲載雑誌名』巻（号）発行

所

[引用・参考文献の例]

白川静 (1979) 『初期万葉論』中央公論社

山本幸俊 (1983) 「近世初期の論所と裁判?会津藩を中心に」北島正元編『近世の支配体制と社会構造』吉川弘文館

西川経一(1957)「源氏物語の『世』と『物』」『季刊文学・語学』6号

- ⑥ 翻訳書の場合には、原著および翻訳書を上記の書式に従って記述する。原著者名のあとの原著公表年代と訳書公表年代は＝で結ぶ。翻訳書は、丸括弧で括る。

[翻訳書の例]

Shannon, C.E. and Weaver, W. (1949=1969) *The Mathematical Theory of Communication*, The University Illinois Press. (長谷川淳・井上光洋訳『コミュニケーションの数学的理論』明治図書)

(2)本文・注での引用

本文・注での引用は、以下の「方式1」「方式2」のいずれかで記載する。

①「方式1」

- i. 引用箇所には、文献の著者と公表年代と必要な場合は引用ページを(氏名 文献発行年：引用ページ)の形式で記入する。

(白川静 1979) (白川静 1979 : 12-13)

(Shannon and Weaver 1949=1969: 127-28)

- ii. 複数の引用文献がある場合には、(氏名1 文献発行年：引用ページ；氏名2 文献発行年：引用ページ)とする。

- iii. 同一著者の文献を複数引用するとき、「；」で区切って列記する。

(西川経一 1979 : 11 ; 1980 : 9) (Shannon 1949: 11; 1951: 25-26) 3

- iv. 同一著者が同一年で複数の公表があるとき、a, b…を付して区別する。

(西川経一 1979a : 37) (Shannon 1949a: 11)

- v. 同一文献の複数箇所を引用するとき、「，」で区切って列記する。

(西川経一 1979 : 11, 19)

vi. 翻訳書の場合には、原著公表年代と訳書公表年代を＝で結ぶ。

(Shannon 1949=1969: 25)

※ 原著の頁数も入る場合は、(Shannon 1949=1969: 20=25)

vii. 引用文献を本文中の注に入れた場合、引用した文献名を文末の「参考・引用文献」欄にかならず記載する。

② 「方式 2」

i. 引用箇所の最後に通し番号の肩括弧数字を記載する。「方式 2」の場合、補注も引用と一括して記載する。

「……だ (1)。」 「……と言える (12)。」

ii. 論文の末尾に〈注〉と明記のうえ、引用を通し番号順に一括して記載する。なお、〈注〉の中での引用・参考文献の記述の仕方は「5. 引用・参考文献、本文および注での引用」に準じて著者名、公刊西暦年、書名・論文名、発行所・雑誌名を記述したあとに、引用ページを付ける。

iii. 「方式 2」の場合は、〈注〉の中で引用・参考文献を記載しているので、論文の末尾に、引用・参考文献を改めて記載する必要はない。

[注の例]

(1)山本幸俊 (1983) 「近世初期の論所と裁判?会津藩を中心に」北島正元編『近世の支配体制と社会構造』吉川弘文館 22-23

(2)西川経一 (1957) 「源氏物語の『世』と『物』」『季刊文学・語学』6号 12-13

6. 図・表・写真の取り扱い

図 (写真を含む) ・表には、図 1, 図 2, …, 表 1, 表 2, …のように通し番号を付け、必要ならば図表の簡潔な説明文 (キャプション) を付ける。

[説明文の事例]

図 1 5 年間の報道量の推移

表 5 インターネットの利用方法

7. ページ番号 (ノンブル) の記入

原稿には必ずページ番号を付ける。

以上